

春野町史年表

時代区分	元号	年代	事	項	関連事項
原始・古代 縄文時代 弥生時代		前三千年	秋山山根に縄文文化。		
		前三世紀	秋山山根に米作り始まる。		
古墳時代		紀元頃	山根に大洪水（前後四回あり）、 荒倉等に高地集落生まれる。		
		三世紀	西分馬場末に集落発達し、ツボ棺に乳幼児屍体を葬る。		
		五世紀	馬場末集落の住民ら土師器使用。 村々に神々生まれる。		
律令時代		六世紀	吾川国造生まれる？。		
	大化元年	六四五			大化改新
	和銅三年	七一〇	吾川郡設置される。		奈良遷都
	天平九年	七三七	弘岡上横手に古墳造られる。 この頃秋山種間寺開創？		政府痘瘡の注意を諸国に令する。
	天平勝宝四年 同 七年	七五二 七五五	吾川郡大野郷ら東大寺封戸となる。 吾川郡司少領秦国勝勤務する。 吾川郡桑原郷戸主日奉部夜恵調絶を貢納する。		

年表

時代区分	元号	年代	事	項	関連事項	
同 莊園時代	延暦一三年	七九四			平安遷都	
	延暦一九年	八〇〇	郡司灌漑につとめ、セイ本を造る？		政府綿の栽培を勧める。	
	天長三年	八二六			田村庄、久万庄神護寺の莊園となる。	
	承和八年	八四一	吾川郡より高岡郡分置。この後吾川郡再編成により桑原、次田二郷大野、仲村二郷に編入？			
	貞観六年	八六四			政府貢納品の麩悪を責める	
	同 九年	八六七			海賊跳梁	
	承平二年	九三二	九世紀末	種間寺本尾山麓に遷る。		紀貫之帰京
	同五年 天慶四年	九三五一 四一				承平天慶の乱
	天慶三年	九四〇				海賊誅罰祈願、熊野信仰強まる。
	康保年中	九六五 ごろ	一〇世紀	甲殿住吉神社創建？ 種間寺に白字大般若経の奇蹟起こる。		在庁支配権強まる。
応徳二年	一〇八五		このごろ宇賀長者活動する？		幡多郡三原郷で名主境界を定める。	
	一一世紀		芳原柏尾寺造営される？ 種間寺に薬師如来像安置される。			

同 戦国時代	同 一六年	一五一九	大平元国芳原村若一王子社を修造する。	
	同 一四年	一五一七		名主ら被官契約により戦国的秩序生まれる。
	同 六年	一五〇九	吉良平三尉ら岡豊城主長宗我部兼序を滅ぼす。	
	同 四年	一五〇七		守護代細川氏土佐を退去する。
	永正元年	一五〇四	吉良平三尉ら土佐那鴨部社を造営する。	
			吾南地方に弘岡、喜津賀、森山、仁ノの国人中心の村生まれる。多くの名主成長する。土居付近に市場生まれる？。	
	明応六年	一四九七	大平元俊吾川郡諸木村若一王子社を修造する。	
	応仁元年	一四六七		応仁の乱起こる。
	同			
	同			
同 室町時代	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
同 南北朝時代	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			

同 院政時代	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
中世 鎌倉時代	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
同 南北朝時代	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			
	同			

		同 安土桃山 時代	
同 一二年	一五六九	吉良親貞謀略をもって蓮池城を攻略、一條氏守兵逃走する。	足利氏滅ぶ。
天正元年	一五七三		
同 二年	一五七四	長宗我部元親一條兼定追放、土佐国を統一する。	
同 三年	一五七五	香宗我部親泰森山八幡宮を造営する。	
同 五年	一五七七	吉良親貞中村城に病死する、子親実継ぐ。	本能寺の変。
同 一〇年	一五八二		
同 一一年	一五八三	吉良親実讃岐引田で仙石久秀と激戦する。	
同 一四年	一五八六	吉良親実久武内蔵助と仁淀川原に意趣を持つ。 吉良播磨守戸次川に戦死する。	戸次川合戦。
同 一五年	一五八七		長宗我部檢地始まる。
同 一六年	一五八八	吉良親実、元親の怒を買ひ自刃を命ぜられる。勝賀野次郎兵衛蓮池城に闖死する。(年月日に異説多し)	
同 一七年	一五八九	吾南地方に長宗我部檢地行なわれる。	長宗我部氏浦戸城下町を経営する。
同 一九年頃	一五九一		
慶長二年	一五九七	弘岡村に再檢地行なわれる。籠宗全その厳しい檢地に怨を買ひ殺害される。	同和部落設置はじまる。
同 四年	一五九九		長宗我部元親伏見に死す。

大永七年	一五二七	本山実茂ら朝倉庄池ノ内神社を造営する。	
天文九年	一五四〇	本山清茂荒倉社を造営する。 大永七―天文九の間に吉良氏滅ぶ。	
同 二〇年	一五五一	吉良宣経死する「吉良物語」、この前数年間に「吉良條目」制定、南村梅軒来り南字を伝える。	
同 二二年	一五五二	一條氏吾南地方に進出か。	一條氏蓮池八幡宮を造営する。
同 二三年	一五五三	一條氏東諸木村堀内九郎右衛門と被官契約をする。	
弘治三年	一五五七	本山茂辰、森山、秋山を併せ、高東に進出し一條氏を逐う。	
永祿元年	一五五八	本山茂辰芳原村若一王子社を造営する。	
同 二年	一五五九	本山茂辰荒倉社を造営する。	
同 三年	一五六〇	長浜戸ノ本の戦、長宗我部、本山争覇戦開始される。 本山茂辰秋山村橋本甚兵衛を激励する。	桶狭間の戦、
同 四年	一五六一	長宗我部元親東諸木堀内九郎右衛門を激励する。 本山茂辰東諸木堀内源左衛門を激励する。同島田善左衛門を激励する。 この頃本山親茂秋山城を攻略する。長宗我部氏反撃して吾南地方に激戦。	
同 五年	一五六二		朝倉城付近で長宗我部、本山激闘ついに本山敗退する。
同 六年	一五六三	吉良氏長宗我部氏に滅さる「吉良物語」。長宗我部親貞吉良氏を名乗る。	

同 三年	一七四三		
寛保元年	一七四一	柏尾山麓に製鉄場動く(約一年で中止)。	
同 一八年	一七三三	深瀬権兵衛飢饉を救恤する。	享保大飢饉。
同 一二年	一七二七	千齒扱伝わる。	
享保一〇年	一七二五	唐箕使用伝わる。	地主的土地所有黙認となる。
正徳四年	一七一四		被官解放進む。
宝永四年	一七〇七	島田善左衛門讓受郷士となる。以後島田一族甲殿村にて郷士多し。	宝永地震、津波。
元祿末頃	一七〇〇頃	新川町家数六十余となる。	
同 一〇年	一六九七	深瀬伝右衛門藩の用金に応ずる。以後度々行なう。	
同 六年	一六九三	八田村に揚水用水車を懸ける。(この以前弘岡井筋にも水車使用か)。	
元祿三年	一六九〇		大定目制定される。
貞享二年	一六八五	弘岡井筋、同堤防の掟定められる。	
同 三年	一六八三		郷中掟を令ずる。
同 二年	一六八二	藩士坪内実右衛門秋山村に池田寺を造営する。	
天和元年	一六八一	秋山村上免の村、仁ノ村中免の村と定められる。	天和平等免成立する。
同 六年	一六六六	西分木塚明神造営される。この頃堀内弥左衛門一向宗高顕寺を開く。	洪水により以後本田租率六割となる。

同 三年	一六六三		
寛文元年	一六六一	北岡氏、生方氏弘岡井筋奉行に起用される、以後累世両氏勤務。	兼山失脚、寛文改替行なわれる。
明暦二年	一六五六	岡林小左衛門郷士となり、弘岡上ノ村クセイ谷に領知を開く。	
承応元年	一六五二	弘岡井筋完工、新川町開創となる。	
同 五年 (慶安元年)	一六四八	山内忠義柏尾寺を現在地に再建する。 弘岡井筋工事開始せられる。(仁淀川畔堤防工事も開始か)。	
正保元年	一六四四		郷士起用開始せられる。
同 二〇年	一六四三		野中兼山本山掟を令ずる。
同 三年頃	一六二六	村上八兵衛検地により仁淀川に溺死(または逐電)。	
寛永元年	一六二四		村上八兵衛検地―村上改、田地割替制実施。
同 一七年	一六一二		山内忠義「定法度條々」を令ずる。
同 八年	一六〇三		徳川家康征夷大將軍となる。
同 六年	一六〇一	兵農分離進む、山本久兵衛内谷村庄屋に起用される。各村に庄屋任命。	山内一豊浦戸に入城する。
同 五年	一六〇〇	浦戸一揆壊滅する。	関ヶ原の戦、長宗我部氏土佐国を没収される。

近世
江戸時代
初期

同
中期

同 一一年	一八一四	高岡郡新居村と西畑村境論、藩主山内豊資西郡巡行深瀬氏に止宿する。	
同 一三年	一八一六	仁淀川洪水堤防破損する。	
同 一四年	一八一七	土佐郡朝倉村と弘岡三方村と肥草山争論。	
文政 五年	一八二二	干水にて弘岡井筋井下申合せを行ない分木、印杭、通水、番水等の掟を守る。 堀内市之進庄屋役罷免となる。	
同 六年	一八二三	深瀬久右衛門田所久之進より領知高岡村天崎山を買得石灰焼を経営する。 西畑村庄屋岩本五郎右衛門干天に村人を督励して灌漑する。	この頃土佐藩で新田検地厳しく行なわれる。
同 九年	一八二六	新川町商業に制限を加えられ愁願して既得権を守る。	海防問題起こる。
同 一〇年	一八二七	異国船漂流により郷士、庄屋ら浦戸へ参集する。以後この件多し。	
同 一二年	一八二八	深瀬栄吾学問教育により藩よりに賞せられる。 秋山村庄屋前田喜作検見の件にて藩より叱責される。	
同 一二年	一八二九	郷士、庄屋仁井田大筒打に参加、深瀬堅吾上方に学問修行に赴く。	
天保 元年	一八三〇	西分村辻掬水京より帰村、以後文人として活動する。	この頃より土佐藩村々追放人多くなる。
同 五年	一八三四	島村右馬允日記を書き初める(明治二年まで)。	
同 六年	一八三五	新川町に藩宮石灰焼始まる。	

延享 元年	一七四四	踏車伝わる。	
同 二年頃	一七四五頃	南部に下右衛門橋(よし橋)できる。	
宝曆 二年	一七五二		国産方仕法強化される。
同 一三年	一七六三	干水により八田水車井下より抗議を受ける。	幡多郷士起用。
明和 二年頃	一七六五頃	万石どおし伝わる。	
同 三年	一七六六	島村(細川)氏御免売郷士となる。	
安永 五年	一七七六	野村義方深瀬栄吉の学才を賞する。	庄屋の任免転任多くなる。
天明 四年	一七八四	深瀬鍛冶介護受郷士、以後深瀬一族護受郷士多し。	天明飢饉。
同 七年	一七八七	国学者一歌人吉本虫夫芳原村庄屋となる。	天明改革(寛政改革)はじまる。
同 八年	一七八八	吉本虫夫芳原村堀川改修を行なう。	
寛政 二年	一七九〇	東諸木庄屋堀内市之進農書「治生録」を著わす。	不作困窮する。
同 四年	一七九二	弘岡中ノ村庄屋森本儀助田役により賞せられる。	
同 八年	一七九六	弘岡上ノ村久兵衛安芸宮島参詣の日記を残す。	郷士高村退吾殺害に郷士団結抗議する。
同 九年	一七九七		
文化 二年	一八〇五	この頃吾南地方に俳句流行する。	
同 五年	一八〇八		伊能忠敬測量来国。
同 九年	一八一二	吾南の稲作豊熟する。(まれである)	

同 後期

時代区分		元号		紀元		政治、社会		水利、産業		交通、文化		関連	
近代 明治前期	元号	明治元	一八六八	辻友猛、深瀬貞吉会 津戦争戦死。								明治維新。	
	二	一八六九										版籍奉還。 藩政改革。	
	三	一八七〇		庄屋廃止、郷正設置。								高知藩病院設置。	
	四	一八七一		郷長設置、区制施行。								廃藩置県。 人力車取締り。 身分解放令。	
	五	一八七二		壬申戸籍作製。								駅通法施行。	
	六	一八七三										学区制、用水工事 費民区分規則、地 租改正開始。	
	七	一八七四										小学校各村に設立進 む。種間寺再興へ。 堤防規則、立志社 設立。	
文久元年	一八六一		土佐勤王党に森山村武政大道加盟する。 種痘伝えられる。									土佐勤王党結成。	
元治元年	一八六四		庄屋ら砲台建設に寸志を出す。										
慶応元年	一八六五		庄屋ら大筒献納する。										
同 二年	一八六六		郷士仁ノ村陣屋に集合する。									開成館仕法開始。	
同 三年	一八六七											大政奉還、江戸幕府滅ぶ。	

時代区分		元号		紀元		政治、社会		水利、産業		交通、文化		関連		
末期	同 一年	一八四〇		弘岡上ノ村小田井流修理後申合せを井下村々行なう。									天保飢饉米価暴騰する。	
	同 二年	一八四一		弘岡下ノ村根木谷より荒倉社に手水鉢を運ぶ。									天保庄屋同盟。 天保幕政改革。	
	同 一三年	一八四二		この頃海岸に地引き網漁さかんとなる。 辻掬水還暦祝賀に文人多く集まる。 深瀬堅吾校授館にて論語講釈。										
	同 一四年	一八四三		この頃より在々に寺子屋さかんである。									天保藩政改革。	
	弘化元年	一八四四		新川町また愁願して権利を守る。										
	同 二年	一八四五		藩主山内豊熙西巡の途新川町に筏乗りを見る。										
	嘉永二年	一八四九		酉の年大洪水、弘岡堤防破損、西分庄屋辻儀之助「洪水記」を残す。										
	同 六年	一八五三											ペリー来航。	
	安政元年	一八五四		甲殿村等大破損となる。西諸木村庄屋岡本新三郎ら年貢作配に苦心する。										安政地震、津波。
	同 四年	一八五七		弘岡上ノ村庄屋吉村儀八給人式拾歩ノ一米取扱いで地方非常となり処罰される。										
	同 六年	一八五九		深瀬与太郎長崎へ医術修業に赴く。										安政大獄。
	万延元年	一八六〇		新川町家数百六十四となる。弘岡下ノ村吉良宅快日記を残す。										桜田門外の変。

近代 明治後期	〃 一七	一八八四	秋山村に減租請願会 (各村に多し)、戸 長官選。	田中芳男、辻友政を 訪い勸業につき快談 する。 中内丈太郎製紙にク ロールカルキ加用。	秋山喞々小学校学則 制定。同校に女教師 着任、細川義昌高知 にて人力車に乗る。 弘岡郵便取扱所開業。	写真拡がる。 自由党解党。 高知県教育談会。
	〃 一八	一八八五		道路工事に砂利使用 石割に火薬使用。	吾南地方より小学校 奨励試験受験者一〇 四人、細川義昌クリ スチャンとなる。	学校令、内閣制。
	〃 一九	一八八六		仁淀川大洪水堤防決 潰、水利土木会規約 成る。	秋山に天然痘、説教 会無届にて解散させ られ義昌抗議する。	コレラ流行。
	〃 二〇	一八八七	安並正原ら農正会を 開く。大同団結に吉 良順吉、安並正原ら 上京、前田重雅方に て建白示談会、保安 条例細川義昌ら下獄。	井筋訴訟費用負担決 まる。甲殿港土工会 成立。細川義昌夏蚕 を飼う。芳原村上田 千東畳表研究。津野 圭八郎ら瓦を焼く。	細川正文ら三名受洗、 細川義昌母の還暦祝 をキリスト教式で行 なう。	
	〃 二二	一八八八	新村編成の動き。	林遠里式稲作試みら れる。	弘岡高等小学校開校。	市制町村制公布。
	〃 二三	一八八九	大救細川義昌ら出獄 帰国、祝賀会。新村 出発、仁西村長選紛 擾。地価引下げ、西 分にて憲法研究会。			憲法発布。

〃 八	一八七五	大小区制実施。				地租改正進行、女 房かたぎ禁止。
〃 九	一八七六		甲殿、諸木水車にて 八田村と対立。	西畑小学校々舎建築。		地租金納化。
〃 一〇	一八七七	田地割替止む。	殖産興業進められる。	種間寺再興。		二歩減租、県で蚕 種製造、立志社建 白。
〃 一一	一八七八	土佐州会に細川義昌 議員となる。				種痘仮規則、県全 域地価詮評。
〃 一二	一八七九	県会に細川、吉良、 武政ら選出される。 三新法実施。				吾川郡役所伊野村 に設置、県会村会。
〃 一三	一八八〇		山脇権次、中内丈太 郎父子製紙創業。			県堤防組合設置を 進める。
〃 一四	一八八一	弘岡中ノ村小学校で 有志懇親会、板垣、 片岡参加。		吾川郡自由教育会設 立。 細川義昌一家種痘。		地租改正完了！新 租。
〃 一五	一八八二	伊野村で吾川第二懇 親会。	大阪控訴裁判所より 水利判決！県敗訴。			県内郡村に教育会 設立の動き。
〃 一六	一八八三	弘岡上ノ村々々で村 有地払下げ。	細川義昌みかんを栽 培。	甲殿小学校を廃し甲 殿讀書会に。		松方財政、米一石 四円。

〃 三五	一九〇二	島田糺衆議院議員当選。	仁淀川堤防強化（三カ年継続）。いね正条植拡まる。		地価引下げ。
〃 三四	一九〇一	新川大火。	各浦へ漁業組合生まれる？。弘岡中ノ村に製糸用だるま伝わる。種籾塩水選実施。	弘岡中青年会談話会。	漁業法公布。
〃 三三	一九〇〇			就学率向上、教科研究会おこる。	産組法公布、郡視学県知事より任命制。高知県政界政友会に統一。
〃 三二	一八九九	細川義昌水産組合長。（前任島田糺）西分村農会発足。	高知仁西線改修。仁淀川大洪水中島流失。	この頃見本了、塩田直馬弘岡上ノ村尋常小学校にて教育効果をあげる。	農会法公布。宇田滄溟自由主義の衰えを嘆ず。
〃 三一	一八九八		郡道伊野長浜線起工。仁淀川堤用石宮崎水越で兩岸対立。		
〃 三〇	一八九七	弘岡中ノ村々長問題。		青年の夜遊びさかん門田益穂らカイツリに国旗と帯刀で参加。	
〃 二九	一八九六		荒倉峠へ横手より人力車通う。		

〃 二八	一八九五		吉長領吉ら吾川蚕糸会結成。品評会。仁淀川堤防強化（三カ年継続）。		
〃 二七	一八九四	西分村長有給となる。吾川郡書記仁西村長事務官掌する。仁西村長有給となる。助役無給を月三円とする。	土功会改組、水利、水防二本建となる。		日清戦争。
〃 二六	一八九三	木塚村西分一芳原兩村に分離。	弘岡井下村々八田村と大水論、逮捕者多し、仁淀川大洪水堤防決潰。		
〃 二五	一八九二	弘岡上ノ村に廿日会生まれる。秋山村にて選挙干渉二名死。		この頃武政大道青年教育を行なう。	選挙大干渉。
〃 二四	一八九一	このころ地主手作放棄多し。	新川郵便取扱所、仁淀川堤防強化（三カ年継続）、上田千束芳原村に畳表製造開始。		郡視学設置、宇賀晴樹「教育論」発表。
〃 二三	一八九〇	森山村々有地処理難航、新川嶺に山南懇親会。細川義昌高知市に転住。	仁淀川大洪水、堤防決潰。荒倉峠へ新道工事か、地主同盟規約成る。中内丈太郎典具帖紙改良。	西分本願寺に青年会。	第一回総選挙。

近代 大正期	三	一九一四	弘岡上ノ村廿日会実行組合結成を進める。成美会同和問題に取り組む。			
	二	一九一三	西分村紛擾和解へ。	弘岡れんげ種販売組合活動。仁西村地引網改良に補助。荒倉トンネル計画。桑葉高値。仁西村にえんどう関係産組結成。	仁西村々会にて小学校長教育予算説明。	
	四五 (大正元)	一九二二	弘岡上ノ村農会技手を置く。	水稲除草器、硫酸、大豆粕使用。行当切抜の防水戸に門を付ける。仁淀川堤防強化(三年継続)、仁淀川堤防で両岸対立。		
	四四	一九二一	西分村村長調査。弘岡上ノ村有給村長条例。西分村々議選問題となる。	門田益穂れんげ種販売に苦心する。		
	四三	一九一〇	道路問題で西分村村長辻友恵より小田玉城に代る。西分信用組合結成。	西分村で蚕種共同購入。		

三六	一九〇三	細川義昌政友会支部対立調停に苦心、島田糺衆議院に当選する。予備兵召集。	戸原、長浜漁場紛議、短冊苗代普及。	政友会支部二派にて対立、選挙腐敗、片岡健吉死。
三七	一九〇四	島田糺落選。各村に出征者多し。	西分村に蚕病消毒所、細川義昌鉄道、銀行に出資。	日露戦争。総選挙。
三八	一九〇五	弘岡上ノ村々長有給廃止。細川義昌国債四三〇円を買う。西分農会活発。	細川義昌県庁にて産組講話を聞く。農商務省技師具漁村視察。細川義昌同行。新居、仁ノ漁場調停。	講和条件に不満多し。
三九	一九〇六	秋山村等戦死者遺骨帰る。	行当防水施設につき八田村と話し付く。	
四〇	一九〇七	道路問題にて西分村紛擾。	人力車普及西分増井に建場。	
四一	一九〇八	衆議院議員に細川義昌当選。農会各村に活動。	道路問題秋山村紛擾。西分村に稚蚕共同飼育。	衆議院議員選挙。板垣退助社会改良運動。義務教育延長。
四二	一九〇九		水防組合規約改正。郡道弘岡、仁西線着工？。	

九	一九二〇	弘岡中ノ村農会再建問題。各村予算急膨脹。	藪高値。弘岡上ノ村川原えんどう作る。一代雑種の蚕種拡がる。	吾川郡視学公文羊子自由教育に理解。	コレラ流行。国勢調査。
一〇	一九二二	門田益穂仁淀川渡舟覆没事故で県に抗議する。	仁淀川渡船沈み弘岡方面で数人溺死。弘岡下ノ横浜線県道移管。門田益穂常設委員。弘岡れんげ種販売組合結成。洪水八田堰欠損。新川局に電話開通。	若尾瀧水「海月」発行。石田定福師範学校新卒教育の理想に燃える。橋本一郎「濤音」で同志と歌作。弘岡高等小学校休育に優勝。弘岡上ノ村に仁陽協会活動。	堀詰座に模擬国会。義務教育費一千万円国庫補助。政友会党勢拡張運動。
一一	一九二三	秋山村大挙政友会入党。小作地返却分を雇人にて耕すものあり。	秋山村信用組合新築。八田堰改修ノ近代化開始。西分村に機械米つき。西込蚕種所活動。諸木村々道宮ノ前ノ戸原線建設。	弘岡実科高等女学校となる。青年団幹部講習会。秋山、甲殿両小学校合併問題ノ不成功。	全国水平社成立。片倉製糸繭契約購入。
一二	一九二三	関東大震災に吾南各地より共同して大根漬を送る。	弘岡信用販売購売利用組合設立。温床栽培導入ノ前田福太郎。弘岡産業組合農業倉庫設立。仁ノで森健吉灌漑工事ノ失敗。	上田盛実弘岡高等小学校に自由教育の成果をあげる。	郡視学制廃止。県視学へノ郡制廃止。農業教員養成所設置。政府用排水路工事に補助。

四	一九一五	諸木村々治難渋。	門田益穂仁淀川堤防完工報告。弘岡下ノ村起債にて耕地整理。	山下長太郎理科器械充実につき村会に意見書提出。	自動車紹介される。
五	一九一六	土佐湾沖に高知県漁民大専用漁場設定。弘岡上ノ村役場測板式丈量器購入。	郡道西畑線起工。仁西村々長道路積立金を提案。秋山村々道拡中でもめる。吉良禎吉耕地整理申請。	弘岡中ノ村に電燈つく。	県青年会準則を示し結成を勧める。政府村は調査を促す。芦田恵之助自由選題綴方を伝える。
六	一九一七	秋山村に稚蚕共同飼育。細川義昌ハイヤー使用高岡へ。れんげ種用に燐酸を施す。仁淀川堤防強化(三カ年継続)。	川田十雨親孝会にて句作にはげむ。	山崎延吉デนมアイク式農業を説く。米人チャンピオン墜落死。	
七	一九一八	米騒動に秋山村小作人ら神社に集まる。この年より検見請求多し。弘岡上ノ村役場の交代はげしい。	秋山村に信用組合結成。弘岡上ノ村で村道整備へ。西分、増井の人力車大はやり。	弘岡婦女会活動。結核ようやく多し。スペイン風大流行。	第一次世界大戦終わる。米騒動。県内に定期自動車走行。
八	一九一九	弘岡上ノ村役場に希望者なきを歎く。	新川局に電話架設運動。門田益穂五号燐酸施用。麦の改良蒔。	仁西、秋山村に電燈つく。弘岡下ノ村補習教育で表彰される。	吾川郡婦人会準則を作り結成を勧める。青年活動さかん。教員増俸。

五	一九三〇	秋山隣保館開館、弘岡上ノ村予算一五パーセント減一各村同様。	海南爾糸販売組合結成。トマト栽培油障一六枚一門田瑞穂、仁淀川大橋近代橋となる一バス通行。吾南に電話が架設進む。	弘岡上ノ村小学校焼失。伊野小学校長安並馬吉個性調査研究指定。川田十雨竜巻会結成句作にはげむ。弘岡下ノ村にて県下青年弁論大会。	満州事変、製糸操短、
六	一九三二	弘岡上ノ村学校火災に積立金一・四万円投入。	海南爾糸工場落成、諸木郵便局開局。西瓜を田へ一毛作。針木梨園の助成を受ける。	弘岡上ノ村小学校創立。	吾南、高東に小作争議。第一次上海事件。高岡町に全農県連設立。救農国会。
七	一九三二	各村に地主組合生まれる。各村に召集者多し。岡崎精郎高知県差別撤廃期成同盟設立。秋山、森山、仁西小作争議激甚。弘岡上、中共同で時局匡救土木事業を起す。	蕪、大根収入により戸数割を四期分納へ。西分村耕地整理開始	深瀬薫みのり学園創立。	
八	一九三三	秋山村在郷軍人全村一致を説く。弘岡上ノ村教育費積立を止める。	仁西、長浜線起工。	弘岡中ノ村御殿に南学記念碑建設。	八田小学校で校長満州視察談。

一三	一九二四	弘岡中ノ村松田早苗カボチャ導入。			
一四	一九二五	吾川郡弘岡水平社百笑館に発会式。			
一五	一九二六	国沢亀全国水平社総会出席。	油障子による温床の普及。この頃針木梨小島源平ら創業。	青年訓練所開始。	郡役所廃止。
昭和二	一九二七		森健吉仁ノ灌漑成功。		金融恐慌。
三	一九二八	弘岡三カ村と森山村との合同について調査研究協議が行なわれたが、ついに合同ならず。	吾南耕地整理組合結成八田堰等改修(五年迄)、吾南に組合製糸の動き、油障子百枚にてキウリ栽培一門田瑞穂。この頃前田福太郎加温栽培研究。	小学校教育に地方化實際化の動き。	衆議院選無産党進出、田中寛一個性調査で講習。
四	一九二九	秋山村々議選に無産議員半数を占める。秋山村に労働組合大会。岡崎精郎秋山村長となる。弘岡上ノ村に消防ポンプ設置。	西畑に川原西瓜はじまる。自転車使用全盛。	中山卯月四〇〇メートルに五一・六秒の記録樹立。	県穀物検査規則施行に猛反対。県下連合青年大会国難を叫ぶ。底引き網反対の漁民騒動。

現代 昭和後期						
二〇	一九四五	供出米督励に苦しむ。復員兵帰る。	枕崎台風被害甚大。			占領軍高知県に来る。占領軍民主化政策を令する。婦人参政権。
二〇	一九四五	弘岡上ノ村小学校にて国土防衛のため講習会。高知市の罹災者吾南へ来る。共同防空壕掘り。郷土部隊吾南を守る。終戦、四四連隊解散。	地主反対にて適正小作料難航再調査。			高知大空襲。
一九	一九四四	適正小作料の件に付小作官指導。農業会成立。弘岡中ノ村県に適正小作料申告。				
一八	一九四三	改正市町村制にて地方自治ほとんど失われる。	高知市より買出し人來はじめ。弘岡中ノ村麦作のため耕地整理、各村多し。	吾南九カ村翼賛壯年団南学祭執行。		改正市町村制施行。県道路整備計画行なわれず。
一七	一九四二	各村に甘藷等供出割当て。空襲警報出る。	上からの生産、供出に農民振り廻される。			地方事務所設置。翼賛選挙へ。

九	一九三四	秋山村小作争議終る。	弘岡上ノ村々会中堤を廢堤とする。西分局開く。弘岡井堰部分修理。	中島県立図書館長南学講話。		
一〇	一九三五	弘岡上ノ村々会積立金の積戻し休止。	西瓜に炭疽病発生。	弘岡農業学校生まれる。		青年学校制。道路愛護運動。
一一	一九三六	各村経済や好転する。岡崎精郎県会議員として質問する。	仁西局開局。荒倉トネル計画不成。弘岡産業組合西瓜出荷祝賀会。松本長身「西瓜を作る人の為に」を出版。	芳原小学校に教育研究会。同時に国民精神作興地方大会。		文部省国体観念強化に乗出す。二二六事件、肅正選挙。ガンソリン値上げ。自動車困難。繭統制。製糸困難。
一二	一九三七	各村に大動員応召者空前。	弘岡上ノ村耕地整理へ。			日華事変。
一三	一九三八					
一四	一九三九	弘岡上ノ村経済更生村に再指定。家庭防空訓練はじまる。	肥料不足配給に苦心する。	京大人文科学研究所設立、初代所長小島祐馬博士。		米配給切符制。青年学校義務制。自動車木炭車へ。
一五	一九四〇		生徒の勤勞奉仕はじまる。勞力不足。			
一六	一九四一		西瓜二割減産—食料一本槍へ。各村に麦蒔等に共同作業化。			国民学校制。太平洋戦争。

〃 二七	一九五二	新川川改修三カ年計画着工。仁淀川汚濁問題おこる。	い草、たばこ栽培さかん。仁淀川橋中央行進工事。吾南ビニール研究会活動。	村教育委員選挙。仁西村公民館完工。芳原村青年高等学院県モデル校となる。	新教育に批判起る。畳表暴落。仁淀川堤両岸にて本格化工事。
〃 二八	一九五三	仁淀川愛媛分水問題。各村長反対に上京。吾南開発協力会現地視察。勝賀野泰長具議調停。弘岡中等四カ村で失対事業開始。	荒倉トンネル開通。各村に農研活動―農村苦悶。甲殿港改修。	弘岡中ノ村小学校改築。弘岡上ノ村青年高等学院で小島祐馬博士講演。仁西公民館で「県政研究会」	仁淀川廃液処理法まとまる。高吾伝染病院建設。
〃 二九	一九五四	合併により平和村発足(六・一)六カ村合併難航する。	細川会館建設。仁西村沈下地にポンプ排水。弘岡井筋改修工事起工式。	弘岡下ノ村公民館分館活動活発。吉岡玉恵ヘレン・ケラー賞受賞。	教育二法公布。農薬ホリドール使用。小型自動車売行良好。県道路整備計画。
〃 三〇	一九五五	吾南七カ村合併への動き。仁淀川大開発計画なる。勝賀野泰長具議ら松山に愛媛県知事を訪い補償上積みをとめる。	施設園芸さかんとなる。仁淀川砂利採取激化する。荒倉山石灰採掘始まる。	勤評問題おこる。青年高等学院しだいに衰える。公民館活動さかんとなる。	供出米予約へ。れんげ栽培止め、牛馬耕作減少。休止中の農協再建へ。
〃 三一	一九五六	仁淀川分水問題妥結する。吾南七カ村合併―春野村(九・三)			地方教育委員任命制。

〃 二二	一九四七	統一地方選挙。新村長きまる。参院選原上権次郎。衆院選原上ツル子立候補。農地改革進む。	仁淀川堤防即時改修の要望高まる。荒倉トンネル期成同盟会結成。仁淀川治水対策連合会結成。	弘岡中、平和中発足。	教育基本法等公布。地方自治法公布。
〃 二三	一九四八		荒倉トンネル着工。仁西村砂糖ブーム。農業会改組農業協同組合へ。	弘岡農業高校。旧村単位の青年団復興活動。川田十雨「勾玉」発行。PTA結成活動。	新制高校制。県教育委員選挙。社会教育推進はじめられる。
〃 二四	一九四九	吾南農業相談所開設。	仁西に川原西瓜再興。いもち大発生。	小島祐馬博士日本学士院会員となる。	高校再編成。いもちに県下十五万石減収。
〃 二五	一九五〇	食糧難緩和。	水利組合吾南土地改良区となる。水田に除草剤使用。	仁ノ、西畑両小学校合併―仁西小学校となる。秋山、甲殿同。	漁業制度改革、沿岸漁業衰微の声。
〃 二六	一九五一	森山村拡声機使用広報活動。弘岡上ノ村に保育園完成。仁淀川改修期成同盟結成。	吾南開発協力会。荒倉トンネル早期完成等政府に陳情。仁西村堤防強化。八田堰県管修理。仁淀川堤岸にて嵩上げ。西瓜栽培さかん。		麦減産。バス路線延長。ビニール油障子の代用に研究。白下糖暴落。

三二	一九五七	製紙廢液で春野代表抗議。弘岡中ノ村に隣保館建設。有線放送開始。	弘岡農業高校にて加温栽培実験。弘岡井筋工事本格化へ。突風に仁ノビニールハウス大傷みとなる。	前田幹夫四〇〇メートル競技に五〇・八秒記録つくる。村立図書館発足。「広報はるの」創刊。	県下高校全入より選抜へ。高東にて温床紙による園芸被害―温床紙止む。
三三	一九五八	南部大火。石丸隣保館改築。春野村健康保険組合出発。村内保育園活発に活動する。	弘岡井筋大改修着工。米大豊作となる。	中央公民館完成(前)。PTA連合会動評問題に慎重。民主教育を守る会活動。	勤評問題激化。歩行者保護の声。婦人学級さかんとする。テレビ県下放映。
三四	一九五九	中島村長県議選出馬辞任。改選により横田百喜村長となる。	仁淀川漁業協同組合稚あゆを放流する。	弘岡中学校生徒増に苦しむ。中央公民館にて青少年補導問題論議。	勤評問題終わる。所得倍増政策進められる。
三五	一九六〇	病虫害共同防除に若者不足。新庁舎落成。有線放送新庁舎に移転活動。	表作おおいに衰える。弘岡中伊予川柑橘研究会みかん園開発開始。沿岸漁業衰える。	文化財委員会設置される。	農業基本法公布。教育現場収拾へ。
三六	一九六一	八田堰ほぼ完工―取水開始。	弘岡井筋工事急ピッチで進められる。西畑川原西瓜全盛。	村中央婦人学級開講。小学校統合推進委員会結成。	大型機械により道路工事進む。仁淀川橋架換工事。
三七	一九六二	八田堰ほぼ完工―取水開始。	ピニールハウス二重張大型化、加温化へ。機械バッチ操業地引き網衰える。	小学校統合問題に結論でる。文庫の鼻に橋本一郎の歌碑立つ。	
三九	一九六四	村議選に大妻田鶴子当選する。あゆの斃死に伊野町に抗議。	八田堰完工。甲殿菜切海岸堤防工事開始。	学校統合に対する仁ノの希望調査。春野東小学校名目統合。	仁淀川橋完工。
四〇	一九六五	農協と共同して村病虫害防除を請負う。三井幹村議当選。	八田堰完工。甲殿菜切海岸堤防工事開始。	学校統合に対する仁ノの希望調査。春野東小学校名目統合。	仁淀川橋完工。
四一	一九六六	村長選挙桑名健吉当選する。前横田村長県議選に出馬辞任。有線放送自動化。学校放送等に活躍。	弘岡井筋工事完工となる。国道五六号線川窪に歩道橋完工する。	春野東小学校舎完成。同西小学校校舎完成。	県過疎に備え集落補強事業を行なう。
四二	一九六七	村長選挙桑名健吉当選する。前横田村長県議選に出馬辞任。有線放送自動化。学校放送等に活躍。	弘岡井筋工事完工となる。国道五六号線川窪に歩道橋完工する。	春野東小学校舎完成。同西小学校校舎完成。	県過疎に備え集落補強事業を行なう。
四三	一九六八	春野村を改めて春野町とする。(九・三〇)	ニッポン高度紙工業弘岡上に移転する。	春野西小学校名目統合。村立図書館まつり。	
四四	一九六九	春野町に開発財団設置。	公舎電話自動化へ。	米の減反政策行なわれる。	
四五	一九七〇	春野町に開発財団設置。	公舎電話自動化へ。	米の減反政策行なわれる。	

三二	一九五七	製紙廢液で春野代表抗議。弘岡中ノ村に隣保館建設。有線放送開始。	弘岡農業高校にて加温栽培実験。弘岡井筋工事本格化へ。突風に仁ノビニールハウス大傷みとなる。	前田幹夫四〇〇メートル競技に五〇・八秒記録つくる。村立図書館発足。「広報はるの」創刊。	県下高校全入より選抜へ。高東にて温床紙による園芸被害―温床紙止む。
三三	一九五八	南部大火。石丸隣保館改築。春野村健康保険組合出発。村内保育園活発に活動する。	弘岡井筋大改修着工。米大豊作となる。	中央公民館完成(前)。PTA連合会動評問題に慎重。民主教育を守る会活動。	勤評問題激化。歩行者保護の声。婦人学級さかんとする。テレビ県下放映。
三四	一九五九	中島村長県議選出馬辞任。改選により横田百喜村長となる。	仁淀川漁業協同組合稚あゆを放流する。	弘岡中学校生徒増に苦しむ。中央公民館にて青少年補導問題論議。	勤評問題終わる。所得倍増政策進められる。
三五	一九六〇	病虫害共同防除に若者不足。新庁舎落成。有線放送新庁舎に移転活動。	表作おおいに衰える。弘岡中伊予川柑橘研究会みかん園開発開始。沿岸漁業衰える。	文化財委員会設置される。	農業基本法公布。教育現場収拾へ。
三六	一九六一	八田堰ほぼ完工―取水開始。	弘岡井筋工事急ピッチで進められる。西畑川原西瓜全盛。	村中央婦人学級開講。小学校統合推進委員会結成。	大型機械により道路工事進む。仁淀川橋架換工事。
三七	一九六二	八田堰ほぼ完工―取水開始。	ピニールハウス二重張大型化、加温化へ。機械バッチ操業地引き網衰える。	小学校統合問題に結論でる。文庫の鼻に橋本一郎の歌碑立つ。	
三九	一九六四	村議選に大妻田鶴子当選する。あゆの斃死に伊野町に抗議。	八田堰完工。甲殿菜切海岸堤防工事開始。	学校統合に対する仁ノの希望調査。春野東小学校名目統合。	仁淀川橋完工。
四〇	一九六五	農協と共同して村病虫害防除を請負う。三井幹村議当選。	八田堰完工。甲殿菜切海岸堤防工事開始。	学校統合に対する仁ノの希望調査。春野東小学校名目統合。	仁淀川橋完工。
四一	一九六六	村長選挙桑名健吉当選する。前横田村長県議選に出馬辞任。有線放送自動化。学校放送等に活躍。	弘岡井筋工事完工となる。国道五六号線川窪に歩道橋完工する。	春野東小学校舎完成。同西小学校校舎完成。	県過疎に備え集落補強事業を行なう。
四二	一九六七	村長選挙桑名健吉当選する。前横田村長県議選に出馬辞任。有線放送自動化。学校放送等に活躍。	弘岡井筋工事完工となる。国道五六号線川窪に歩道橋完工する。	春野東小学校舎完成。同西小学校校舎完成。	県過疎に備え集落補強事業を行なう。
四三	一九六八	春野村を改めて春野町とする。(九・三〇)	ニッポン高度紙工業弘岡上に移転する。	春野西小学校名目統合。村立図書館まつり。	
四四	一九六九	春野町に開発財団設置。	公舎電話自動化へ。	米の減反政策行なわれる。	
四五	一九七〇	春野町に開発財団設置。	公舎電話自動化へ。	米の減反政策行なわれる。	

付
表

〃 四六	一九七二	町同和对策室設置。 秋山町民館開館。高 知市中心の広域都計 ―市街化調整―地域 に入る。	低湿地水田荒廃す る。	弘岡農業高校高知園 芸高校に改組となる。	
〃 四七	一九七二		大規模農道工事開 始。黒潮ラインの一 環として仁淀川河口 橋促進へ。	春野中学校に名目統 合。春野中学校同和 教育県指定研究校と なる。	
〃 四八	一八七三			新中央公民館落成。 秋山山根発掘。春野 中学校々舎落成。	米の減反政策の打 切り発表。
〃 四九	一八七四	参議院議員選挙に違 反者出る。町議会総 辞職。改選新議会成 立。	荒倉トンネル複線 化。東諸木に大規模 施設園芸団地建設。	山根発掘、春野中学 校付属施設完成。	仁淀川堤完工、(西 畑南端まで伸び る)
〃 五〇	一八七五	町長選挙新町長中山 昭となる。県議選違 反者出る。弘岡町民 館完成。	仁淀川河口橋工事進 む。	仁ノの新階登潮作歌 「アララギ」に選ば れる。町教育委員会 文部大臣賞受賞。	

付 表

年代	村名	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
明治四年	弘上						野村方義				為平
	弘中							岡本齊信			野村方義
	弘下							下坂正雄	山下源平		山下源平
	西分			大津正延							
	芳原				上田平		上田平				
	諸木										
	秋山										
	仁ノ、西畑										
	森山										田村耕作

町村長名等一覽表

六	五	四	三	二	昭和 元五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八
		(五・一) 水田虎熊				(三・三) (六・九) 全右				(二・四) 深瀬民衛		(五・三) 前田繁信
	(六・二) 前田重信				(六・二) 山崎繁吉			(五・五) 前田繁信				
(十・九) 勝賀野泰長	(七・三) 高橋銳一郎	(九・一) 前田繁信		(五・二) 高橋銳一郎				(二・四) 門脇龍太郎			(七・六) 島田定馬	
		(八・五) 上田房吉		(九・三) 全右						(六・一) 上田房吉		
		(九・一〇) 上田豊志		(六・二) 上田 董			(二・六) 吉本春馬			(五・四) 中平馬吉		
(四・一〇) 前島主計		(西内一郎)	(七・八) 長崎誠臣	(三・七) 中平嘉一						(四・一〇) 小島善藏		
		(八・三) 岡崎精郎				(六・四) 宮崎琴太郎			(七・三) 宮内林之助			(五・三) 蓼原貞一
	(二・七) 橋本一郎	(二・一) 全右		(五・四) 全						(五・八) 全		
				右								
					(三・七) 竹村比佐治				(二・五) 片山安太郎			(一〇・三) 全
					(九・一〇) 野中貞猪				(九・六) 秋永 穂			右

七	六	五	四	三	二	大正 元四 四五	四四	四三	四二	四一	四〇
(七・三) (二・元) 中山正己 橋本重兵衛		(一・八) 中島啓助					(二・二) 野々宮馬太郎 吉良禎吉	(二・四) 野村方義			(四・五) 深瀬民衛
				(五・五) 井沢沼太							
(一・三) 吉良禎吉				(一・四) 勝賀野 鬼子馬			(三・八) 山添栄馬				(七・九) 吉良禎吉
	(九・五) 上田案山子			(七・三) 小田玉城				(七・六) 小田玉城			(七・九) 辻友憲
		(三・四) 中平馬吉									(九・一〇) 中平馬吉
(五・三) 島田宅助			(九・一) 田島千景								
		(四・二) 小島善藏	(一〇・三) 小島善藏					(一〇・八) 小島善藏			
	(九・三) 土居伝治			(三・九) 深瀬民衛				(前) 安岡左加枝			
		(三・三) 田村秀穂		(三・二) 山脇勘六				(三・六) 全			
(二・五) 宮川長之助		(三・三) 浜田信雄		(中) 浜口正進				右			
							(二・五) 川島友亀				
								(三・三) 矢野初次			
											(四・四) 小島 範

弘上 弘中 弘下 西分 芳原 諸木 秋山 仁ノ西畑 森山

三〇	全右	前田健彦	山下健二郎	全右	矢野景郎	
二九				平和村(七・六) 池上藤馬		
二八						吉川茂愛 (三・九)
二七			中山勇			
二六	全右	森岡深太	川田卓爾	松林榮枝	池上藤馬	前田滔 (四・九)
二五						
二四			前田秀美			吉川茂愛 (四・九)
二三						
二二	中島精一郎	井沢健彦	宇賀延宜	長崎太郎	全右	田村勢郎 (四・九)
二一					吉本勝 (五・七)	山崎幸馬 (四・五)
二〇	浜田真実				中山拓 (二・二)	竹崎米吉 (一〇・〇)
一九				中平喜郎 (一〇・三)	松本喜義 (六・三)	上森延年 (三・一)

一八	全右	前田健彦	山下健二郎	全右	矢野景郎	
一七						
一六	全右	山脇仲藏	吉良猪之助	全右		
一五						
一四						
一三		宮本駒治	中山泉			
一二	安並馬吉	吉良俊好	前田秀美	小澤遊亀	中山元樹 (一〇・〇)	土居重吉 (七・四)
一一						
一〇		山崎繁吉				
九						
八	全右		雨森圓吉	中平嘉一 (一〇・〇)	前島主計 (四・三)	川島友龜 (六・五)
七			島田定馬 (一・五)			川島陸馬 (六・二)

弘上 弘中 弘下 西分 芳原 諸木 秋山 仁ノ西畑 森山

- 13番 宮岡 頼正
 9番 山崎 武喜
 5番 西村 四良
 1番 川崎 実
 14番 中山 昇
 10番 細川 和之
 6番 川村 正一
 2番 大黒 武男
 15番 島田 早苗
 11番 土居 弘尚
 7番 野村 一男
 3番 上田 修次郎
 16番 中村 勝広
 12番 小川 一夫
 8番 元吉 政民
 4番 川崎 宗行

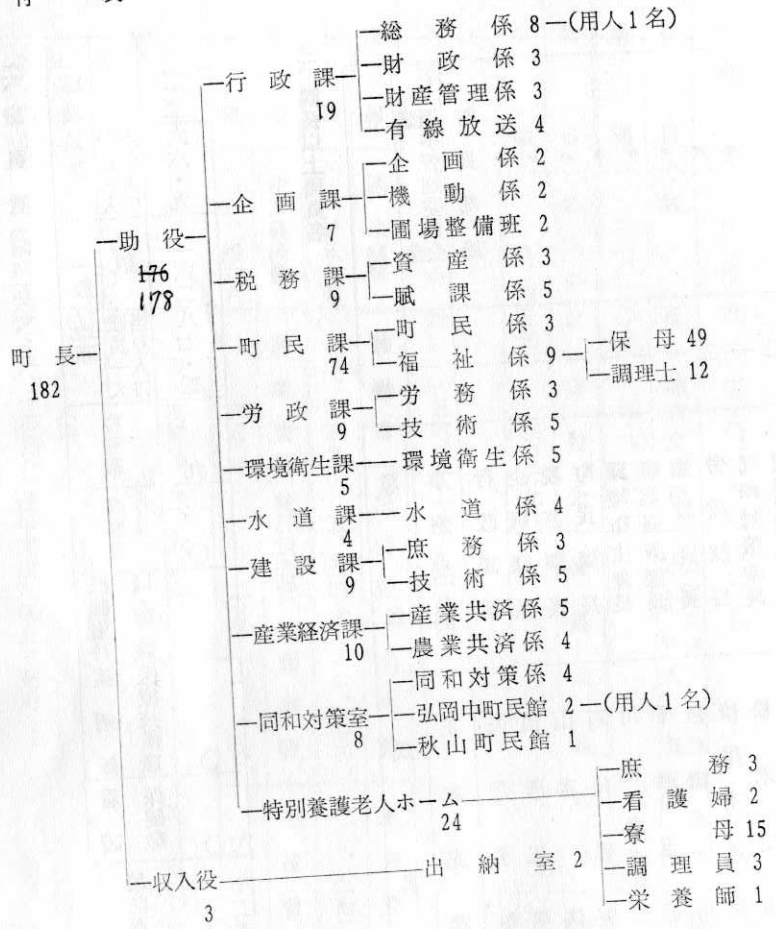
春野町議會議員名一覽

春野町議會議員(昭和四九年一月改選。議員番号順)

五一	五〇	四九	四八	四七	四六	四五	四四
"	中山 昭 (三〇・三九)	"	"	"	"	"	"
"	"	吉川 幸男 (七・三七)	"	"	"	"	"
"	"	德能 啓司 (七・八六)	"	"	"	"	"
"	"	川崎 宗行 (九・九〇) 雨森 広志	前田 秀雄	"	"	長崎 胤喜	"
"	"	"	"	橋本 亭	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	川沢 美秋
"	浜田 正幸	"	"	"	"	"	"

(近森謙郎氏調製)

四三	四二	四一	四〇	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	合併以後
"	桑名 健吉 (二・一〇〇)	"	"	"	"	"	"	横田 百喜 (四・七五) (五・七)	"	"	中島 精一郎 (一〇・三三)	役職
"	"	"	"	中山 昭 (六・三五)	"	"	"	"	"	"	松林 栄枝 (二・三三)	助役
"	吉川 幸男 (五・三三) (六・三六)	"	"	德能 正 (六・三三) (六・三五)	"	"	"	"	"	"	山下 健二郎 (二・三六)	収入役
吉本 勝	"	"	"	森岡 深太	"	川島 速雄	"	"	"	"	西村 伸道 (二)	議長
島田 早苗	上田 佳吉	"	"	"	高橋 静男	"	"	"	"	"	上田 茂穂 (三)	教育長
"	"	"	"	"	宅間 潔	"	坂本 忠義 (三・九)	"	"	山脇 茂 (七・六)	土居 重吉 (二)	教育委員長



一、行政組織図(昭和五〇・五・一現在)

春野町役場組織一覽表

○監査委員	田原 稻繁
1、議長	雨 森 広 志
2、副議長	川 崎 実
3、委員会	◎常任委員長 ○副委員長
(イ) 総務委員会	◎大黒 武男 ○土居 賢一
(ロ) 教育民生委員会	◎山脇 武喜 ○中村 勝広
(ハ) 産業経済委員会	◎島田 早苗 ○小川 一夫
(ニ) 土木委員会	◎川崎 宗行 ○元吉 政民
4、○高知県競輪事務組合議員	元吉 政民
○土佐市春野町高吾伝染病院組合議員	雨森 広志
○仁淀川下流衛生事務組合議員	大黒 武男
○失業対策特別委員会	大黒 武男
○監査委員	小川 一夫
19番 中平 久美	川崎 宗行
21番 田原 稻繁	元吉 政民
18番 土居 賢一	山脇 武喜
22番 森 広志	山脇 武喜
19番 高橋 平八郎	川崎 実
20番 岡本 栄海	宮岡 頼正
	中村 勝広
	島田 早苗
	宮岡 頼正
	野村 一男
	岡本 栄海
	西村 四良
	田原 稻繁
	細川 和之
	高橋 平八郎
	土居 弘尚

二、職員数（昭和五〇、五、一現在）

総職員数	一般行政職	事務職	海事職	医師歯科薬剤師看護	消防職	企業職	技能	教育職	臨時
数 職員一人 当り人口	数 職員一人 当り人口	九	〇	〇	〇	四	三八	〇	〇
二二六・九	一六二・七五								

三、課長以上職員名

部局	等級	職名	氏名
議選管理委員会	一	事務局長	正木光顕
町長部局	一	行政課長	矢野孝男
町長部局	一	企画課長	田所三男
町長部局	一	税務課長	山本満
町長部局	一	町民課長	石田忠憲
町長部局	一	環境衛生課長	川村真貴男
町長部局	一	産業経済課長	千頭至正
町長部局	一	建設課長	宮田勇
町長部局	一	労政課長	伊尾木速男
町長部局	一	同和对策室長	松木定亀
町長部局	一	同和对策室次長	大黒初
教育委員会	二	教育次長	山脇輝彦
農業委員会	一	事務局長	秋永薫一

春野町一般会計歳入、歳出決算表（昭和三一、昭和四八）

○昭和三二年度決算額

一、歳入		合計		（単位 千円）	
費目	村	費目	税	費目	村
金額	三二、二〇三	費目	地方交付税	費目	公営企業及財産収入
		金額	三三、〇二七	費目	負担金及手
				費目	使用料及
費目	県支出金	費目	寄付金	費目	繰越金
金額	九、四五五	費目	繰越金	費目	雑収入
		金額	三、七九八	費目	村債
				金額	一〇、六〇〇

二、歳出 合計 一五六、一二八、二二八円

二、歳出		合計	
費目	議会費	費目	役場費
金額	一、五九五	費目	消防費
		金額	五、五四一
費目	産業経済費	費目	財産費
金額	三、四六六	費目	統計調査費
		金額	六五〇
		金額	二二
		金額	二九〇
		金額	六、八二五
		金額	四一、五二三
		金額	〇

翌年度繰越 三、六八二

表
 歳入合計 一三八、〇九三、六〇二円
 歳出合計 一五六、一二八、二二八円
 歳入不足額 一八、〇三四、六一六円……翌年度歳入繰上で充用

一、歳入 合計 一、三八六、一三六

(単位 千円)

費目	町 税	地方譲与税	自動車取得交付金	地方交付税	交通安全対策特別交付金	使用料及手数料	国庫支出金
金額	一三四、八一七	五、一二三	九、八七三	四一、五七一	一、〇七五	三六、三三三	三三、四一〇
費目	県支出金	財産収入	寄付金	町 債	繰入金	諸収入	繰越金
金額	一一八、八七六	六三、八二四	二八、二六二	七五、四〇〇	一、三〇〇	四六、七四二	一一、九八九

二、歳出 合計 一、三六七、三六〇

費目	議会費	総務費	民生費	衛生費	労働費	農林水産費	商工費
金額	二二、五四八	二二六、三〇九	二八二、三三三	七三、二二九	一六四、一三二	三三〇、四六〇	二、二九四
費目	土木費	消防費	教育費	災害復旧費	公債費	諸支出金	予備費
金額	八〇、一〇八	三三、四八九	二六八、九一八	二二、五七七	五八、五八五	一一、三七九	〇

一、歳入歳出差引残額 一八、七七六

春野町年令別人人口統計 (昭和四五年度国勢調査に依る)

総数 一三、五四七 男 六、四六六 女 七、〇八一

才	一六四	八〇	八四	一六	一九五	一〇三	九二	三二	一六六	八一	八五
一	一六二	九〇	七二	一一	二二一	一二三	九八	三三	一七一	八五	八六
二	一七〇	九五	七五	一八	二二二	九一	一一	三四	一六七	七八	八九
三	一六七	八三	八四	一九	一九六	九五	一一	三五	一六六	八四	八二
四	一一一	六二	四九	二〇	一七三	七二	一〇	三六	一七五	八一	九四
五	一五五	八五	七〇	二二	二三四	一〇九	一一	三七	二二二	九六	一一
六	一五四	九〇	六四	二二	二六六	一一	一四	三八	二〇七	九六	一六
七	一六四	八一	八三	二二	二五四	一四	一四	三九	二〇五	一〇	一〇
八	一六三	八四	七九	二二	一三八	六九	六九	四〇	二二一	九〇	一一
九	一六六	九二	七四	二二	一八六	八二	八六	四一	二二〇	一〇	一一
〇	一五五	九三	六二	二六	一八六	八九	九七	四二	二三四	一一	一一
一	一八七	一〇六	八一	二七	一六六	八五	八一	四三	二〇九	一一	一一
二	一九七	一一一	八六	二八	一八二	八七	九五	四四	二〇五	九一	一一
三	一六五	八五	八〇	二九	一七五	八〇	九五	四五	一九四	一一	一一
四	二〇〇	一〇五	九五	三〇	一四七	六九	七八	四六	一九四	一〇	一〇
五	二二四	一一三	一一一	三一	一一九	五八	六一	四七	二二一	九一	一三
総数	一六四	八〇	八四	一六	一九五	一〇三	九二	三二	一六六	八一	八五
男	八〇	九〇	七五	一一	二二二	一二三	九八	三三	一七一	八五	八六
女	八四	七二	七二	一七	二二二	九一	一一	三三	一七一	八五	八六
総数	一九五	一二三	一二二	二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
男	一〇三	一二三	一二二	二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
女	九二	九八	九八	一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
総数	一六六	一七一	一七一	二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
男	八一	八五	八五	一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
女	八五	八六	八六	一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

種 別	作付面積 (ha)	收穫量 (t)	金 額 (万)	備 考
稲	八四〇	二八八	四九、二〇〇	
麦	一	一	一〇〇	
かんしょ	四	六五	五、八五〇	
大根	三九	一、六三〇	六、〇六三・六	県四位
かぶ	五	二二五	九二八・八	
かぼち	二一	三八九	二、八九四・一六	県二位
西瓜	五三	二、〇一〇	一	県二位
しょうが	二五	六四〇	九、七二二・一六	
白菜	七	一七二	六三九・八四	
ホレン草	四	四四	五〇一・六	
ネギ	二	四二	三七・五二	
玉葱	一	二〇	一二四・八	

農 林 水 産

一般農作物

春野町産業統計

(第二〇次一昭和四八―四九年―高知県農林水産統計年報に依る)

六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一	五〇	四九	四八	総数
一一二	一六一	一六〇	一五一	一四七	一六一	一三六	一六四	一八五	一五五	一六七	一六二	一六〇	一四八	二二五	一五九	一七二	男
五八	七八	七一	六四	六三	七五	五八	六一	七三	六七	七七	七八	七一	六七	一〇四	六五	七七	女
五四	八三	八九	八七	八四	八六	七八	一〇三	一一二	八八	九〇	八四	八九	八一	一一一	九四	九五	総数
八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	男
四二	四九	四九	六三	七六	九五	七九	一〇三	一一一	一一六	一二六	一二八	一一四	一一九	一二四	一二八	一六七	女
一八	二三	一三	二四	三一	四六	三九	四〇	四九	五九	五九	五六	四五	六〇	六〇	六四	八八	総数
二四	二六	三六	三九	四五	四九	四〇	六三	六二	五七	五七	七二	六九	五九	六四	六四	七九	男
九八	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	女
一	〇	一	〇	二	五	九	五	四	一六	一八	一四	一八	一七	三一	二八	四九	総数
〇	〇	〇	〇	〇	一	五	一	二	五	三	一〇	四	七	一一	一九	一七	男
一	〇	一	〇	二	四	四	四	二	一一	一五	一四	一四	一〇	二〇	一九	三二	女

種 別	面 積 (ha)	金 額 (万)	備 考
人 工 林	八、八三九		
天 然 林	一、二〇四		
公 有 林	一、三三八		
私 有 林	一、五八九	五二、一七〇	事業所 七
木 材 製 品		一、四〇〇	
種 苗 木 等			

林 業

種 別	頭 数	金 額 (万)	備 考
乳 牛	九〇	一、三〇〇	
肉 用 牛	三〇〇	二、七〇〇	
豚 用 雞	一、二五〇	二、九〇〇	
探 採 卵 雞	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
ブ ー ー 他	二八、五〇〇	七、二〇〇	
そ の 他			
加 工 農 産 物			

家 畜

種 別	作付面積 (ha)	收穫量 (t)	金 額 (万)	備 考
柿	一〇	一五〇	二二、一〇〇	備 考
夏 み かん	一	二二		
み かん	一三三	二、三八〇		
蘭	七五	九七五	二八、六〇〇	県三位
種 別	作付面積 (ha)	收穫量 (t)	金 額 (万)	備 考
花 豆 弁	一	一	四、八〇〇	
メ ー ン	一〇	二六三	六、九五一・二	
ピ ー マ ン	九	九九〇	二一、九八三・九四	県二位
な ず ね	一二六	六、五〇〇	一〇九、九三九・五	
ト マ ト	八・八	一六一	七、一七八・九	県二位
き ゅう り	一五六	九、二六〇	二〇八、七四八	
種 別	作付面積 (ha)	收穫量 (t)	金 額 (万)	備 考
工 芸 農 産 物				

施 設 園 芸

果 実

水産業

種別	数	量	備考
漁船総隻数	五四		
無動力船	一		
船外機付船	一		
動力船	三九		
内訳			
一t未満	〇		
一t以上三t未満	一五		
三t以上五t未満	一九		
五t以上一〇t未満	一四		
一〇t以上	一		
加工しらす	三三四	(統)	
加工しらす網	二二三	(t)	

加工業

種別	事業所	金額(万)	備考
食料品	一〇	一〇二、三四二	
窯業土石	六	一五、二九九	
一般機械類	三	一五、八六二	
その他		一九、六四二	

春野町文化財

春野町指定文化財

- 一、吉良城跡 弘岡上 昭和三五年指定
 - 二、行当の切抜き " " 三五年 "
 - 三、大楠の木 " " 三五年 "
 - 四、森山八幡宮御神像 森山 " 三五年 "
 - 五、新川の落とし " " 三五年 "
 - 六、新川の古井戸 " " 三五年 "
 - 七、しいの木 西分 " 三五年 "
 - 八、雀ヶ森城跡 諸木 " 三五年 "
 - 九、唐音の切り抜き 同 " 三五年 "
- 春野町の無形文化財
- 一、太刀踊 仁ノ 昭和四一年指定
 - 二、" 西諸木 " 四九年 "
 - 三、さしおどり 秋山 " 四九年 "

国の重要文化財

種間寺の薬師如来像(秋山) 大正二年指定

県の指定文化財

観音正寺観音堂(芳原) 昭和二八年指定

付 表

春野町文化財調査会

会長 中山清城
 委員 揚田武実 門田瑞穂 秋森 勇 三好源美 中村兆志
 岡村 治 宅間一之 上田茂穂 川島良水 岡崎正直
 広田典夫

春野町史編纂委員会組織

一、編纂委員 五名 委員長 町長 川沢美秋
 町長 中山 昭 議長 雨森 広志

文化財調査会長 中山清城 学識経験者 横川末吉

二、編纂専門委員(文化財調査委員) 一二名

中山清城 揚田武実 門田瑞穂 秋森 勇 三好源美
 中村兆志 岡村 治 上田茂穂 宅間一之 岡崎正直
 広田典夫 川島良水

三、事務局

事務局長 教育長 橋本 亭
 書記 山脇輝彦 入交雅彦
 囑託 近森謙郎